

鎌倉文華館 鶴岡ミュージアム

鎌倉文華館 鶴岡ミュージアムは、鶴岡八幡宮の文化活動の中心となっています。展示プログラムは、鶴岡八幡宮と鎌倉市の文化と歴史に焦点を絞ったものが中心となっています。ミュージアムは四角い建物で、西側には平家池があります。設計したのは先駆的なモダニズム建築家のル＝コルビュジエ（1887-1965）に師事した坂倉準三（1901-1969）です。

当初この建物は、日本初の公立の近代美術館である神奈川県立近代美術館の鎌倉館として建てられ、1951年にオープンしました。第2次世界大戦から間もない時期に進歩的な美術館を鎌倉に建てるという計画は、地元の文学愛好家の団体が当時推し進めていた鎌倉市の文化再生プログラムの一環でした。彼らの努力が実り、この美術館は2016年まで鎌倉の文化シーンになくなくてはならないものであり続けました。しかし2016年、県との契約が期限を迎えて、美術館が建てられた土地を鶴岡八幡宮に返還する必要性が生じました。

鶴岡八幡宮は建物を残す決断をし、大規模な改修を経て2019年に再オープンしました。今では国の重要文化財に指定されています。改修後のミュージアムでも、自然光を取り込める中庭、2階のL字型の展示室、それに池を眺めることができる1階の屋根付きのテラスなど、坂倉による設計はそのまま残されています。ミュージアムのギフトショップでは、鶴岡八幡宮や鎌倉に関連したアイテムが売られています。また、隣接した建物にあるカフェでは、大銀杏の一部が展示されています。大銀杏は樹齢約1,000年とも言われ、鶴岡八幡宮の大石段の横に生えていましたが、2010年に倒伏しました。